

日本の野生植物を守る“スーパーヒーロー”はどこに！？

日本の野生植物の4種に1種が絶滅の危機にあることを知っていましたか？新しい道路や家の建設、過剰な植物採取（園芸目的で野生地から植物を大量に採取すること）などの人間の行動は、野生植物を脅かすこととなります。さらに、外来種の植物や動物が広がることによっても野生植物への危害は加わることがあります。下記の植物は、絶滅の危機に直面した日本の野生植物の例です。

カザグルマ *Clematis patens*



本州、四国、九州の岩の多い林縁、原野、湿地に生えるつる性植物。野生植物の中では、花が大きくて目立つので園芸目的の採取が止まない。土地開発や道路工事などによる自生地は破壊も進みつつある。100年後の絶滅確立は90%とされている。

フクジュソウ *Adonis ramosa*



落葉広葉樹の林床や林縁に群生する多年草。日本の固有種で、国内でも北海道と本州のみに自生する。タネから開花まで7年かかり、園芸目的の採取によって自生地が減少しつつある。一般に知られる園芸種“福寿海”の野生化は、この種の保全における問題となっている。

キキョウ *Campanula grandiflora* (*Platycodon grandiflora*)



日当たりのよい山野に生える多年草。里山こそが適切な自生環境のため、里山の減少が個体数の減少の主因となっている。古くから庭に植えられ、また日本文化の中でも親しまれてきた。秋の七草の一つである（もう一つのオミナエシも絶滅が危惧され、秋の七草は五草になってしまうのか…）。根は桔梗根として漢方で用いられる。

オニバス *Euryale ferox*



水生の一年草。本州南部から四国、九州のやや富栄養化の湖沼、ため池、河川に生える。葉がハスに似ており、植物全体が鋭い刺に覆われていることからこの名前がついた。水質汚染に弱く、埋め立ての進行と重なって、姿を消しつつある。現在では、野生では数10カ所でしか見られない。

エビネ *Calanthe discolor*



温帯地方の林床や林縁に生育する東洋ランの代表種。日本、中国、朝鮮に分布する。かつてはもっとも普通に見られた日本産のランの一つだったが、熱狂的な園芸（エビネ）ブームによって個体数が激減した。生育環境はまだ残されているところが多いため、乱獲さえなくなれば、野生個体群の回復も夢ではないと期待されている。

あなたの“スーパーヒーロー”を描いてみよう！

絶滅の危機に直面した日本の野生植物を救う“スーパーヒーロー”がいたら、、、。そんなキャラクターマンガを描いてみましょう！

日本のマンガは世界でも大人気です。ペンやインクによる巧みな筆使い、大きな目が特長的なキャラクターたち。不恰好な姿をしていることもありますが、どんなキャラクターの表情にも感情がはっきりと表されています。

植物を守るオリジナルのマンガ“スーパーヒーロー”を描いてみましょう。あなたのスーパーヒーローが持つパワーは何ですか？そのパワーについても説明してください。さらに、スーパーヒーローは、どんな方法で植物を救い出すのかも教えてください。これらの説明は、マンガの中に取り込んでも構いません。

完成した作品は、5月4日の「植物園の日」に参加する近くの植物園まで持参するか、送って下さい。各植物園では、みなさんから寄せられたスーパーヒーローたちを園内に展示し、優秀作品を決定する予定です。締め切りは5月1日(必着)、作品には住所、氏名、年齢を添えて提出して下さい。